地域で生活する障害者を応援する
「からしだね館」の旬な情報をお届けする機関誌

からしだね通信

VOL.51
2019
12

目次

特集
ボランティア活動を通して
被災地の現場から見えること
～武山世里子・坂岡恵～
２０１８年度決算報告
からしだねワークス＆センターから

「お世話になりました」

理事長　坂岡隆司

アフガニスタンで活動していたペシャワール会の中村哲さんが銃弾に倒れました。ショックで、残念でなりません。武器によっては決して平和は来ない。家族が一緒に暮らせること、三度のご飯が食べられること、それを支援することこそ平和の基礎だ。これが中村さんの主帳でした。自衛隊の海外派遣について国会に呼ばれた時、「百害あって一利なし」「有害無益」だと、中村さんは訴えたのですが、現実はそうはなりませんでした。それでも、困難の中を地を這うようにして生きる人々を目の前にして、中村さんはその場を離れることをせず（離れることが出来ず）、そしてついに恐れていたことが起きてしまいました。

ご遺体を迎えに行ったご家族の姿が放映されていました。「こんなにアフガニスタンの皆さまに厚意を寄せていただいて、父も喜んでいると思います。お世話になりました。」娘さんが頭を下げながら、静かにおっしゃったことばがとても心に残りました。とんでもない、お世話になったのはこちらの方です！と、どれほど多くの人々が思ったことでしょう。最も身近だったご家族のことばは、そのまま中村哲さんご本人のことばのようにも聞こえました。30年以上にわたって、あれだけの活動を続けるには、ご家族の大きな犠牲と支えがあったはずです。ことばにならない重い時間の最後のひとことが、「お世話になりました」という素朴なご挨拶だったことが、私にはとても身に沁みました。そんなご家族の〝文化〟が中村さんを送り出していたのかもしれません。　有名な聖書のことばを思い出します。

「一粒の麦がもし地に落ちて死ななければ、それは一粒のままです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。」（ヨハネ12：24）

皆様にクリスマスの恵みが豊かにありますように。
幸いな新年をお迎えください。

ここ数年、各地で地震や台風による災害が相次いでいます。ミッションからしだねからも職員が被災地におもむき、現地でボランティア活動に参加しています。そこで、現場に立って感じたことを自由に話してもらい、これから私達にできることを考えたいと思います。

ボランティアに行った人
からしだねセンター　武山世里子
からしだねワークス　坂岡　恵

「行かなあかんような気がした」被災地ボランティア…そして「祈り」

坂岡　武山さんは、去年の西日本豪雨災害の後、町が水に浸かってしまった岡山県の真備町に、休みのたびに行ってましたよね。あれは、どういう気持ちからだったのですか？

武山　「行きたい」というより「行かなあかんような気がする」という気持ちでした。私はそれまで一度も、災害ボランティアに参加したいと思ったことがなかったのですが、昨年は「行かなあかん」と思いました。なぜなのか自分でもわかりません。「行きなさい」と突き動かされるようなものがありました。

坂岡　真備町では、どんなことをしたのですか？

武山　水に浸かった家の泥のかき出しや、洗浄、壁や床をはがす作業をしました。泥がいかに厄介なものか、作業をやってみて初めて知りました。泥の細かい粒子は、いったん木目に詰まると、そう簡単には落ちてくれません。全壊していなくても、この泥の処置をしっかりやるのかどうかで、後のお家の状態も変わってくると聞きました。

坂岡　被災された方たちは、災害をきっかけに、住み慣れた家をどうするのか、という大きな決断を迫られるわけですね。特に半壊や一部損壊の方たちにとっては、全壊の方とはまた違った悩みがあるということでしょうか。

武山　私たちは、キリスト教系のグループでボランティアをしていたので、作業前と作業後に、輪になって祈りました。東日本大震災のときに、宗教団体がボランティア活動と称した「布教」をして、被災者の気持ちを傷つけたことがあったようです。でも、クリスチャンとしてこの活動に加わるとき、やはり私たちは、祈りをもって作業を始め、祈りをもって作業を終えたかった。もちろん、そのお宅のお許しをいただいてのことです。

坂岡　それは少しわかるような気がします。私も千曲川が氾濫した長野市で、土砂を土嚢につめるボランティアをしました。社会福祉協議会が募集するボランティアに単独参加したのですが、被災地の現状を目の当たりにすると、自分がいかに小さく弱い存在であるかを思い知らされます。こんな弱い役立たずの私が、被災した方の悲しみを深めたり、じゃまをしたりすることがないように、また、神様が被災して途方にくれている方々を守り助けてくださるように、一人でそっと祈らずにはいられませんでした。

武山　私達が作業の後で祈ろうとすると、そのお宅の方が私たちの輪の中に入ってきてくださったことが何回もありました。そして、ぼろぼろと泣かれるのです。私も一緒に泣いてしまいました。

坂岡　祈りにはなぐさめがありますね。「あなたのことを思っています」と真正面から言われても、ちょっと受け止めがたい。でも、相手が、人を超えた存在に向かって発した言葉の中に、自分のことを大切に思ってくれている気持ちが込められていたら、それはとても真実に近いと感じるのではないでしょうか。

武山　そうですね。ただ、行為が伴わない祈りは、かえって人を不快にさせるような気がします。ボランティア活動と称した「布教」のように。真備では、どこの建築屋のおっちゃんかと思っていた人が、作業が終わって、どろどろの顔のまま祈り始めたら牧師だったということがわかって、そのお祈りに涙を流している被災者の方を見た時に、行為の伴う祈りこそ、人の心を溶かすということを知りました。もちろん、どれだけたくさんの行為をしたかという成果主義ではなく、どれだけ心をこめてやったかということなのですが。

災害時のソーシャルワーク

坂岡　それで、今年もまた、大きな台風がきました。真備町でみた景色が、東北、関東、中部の広範囲にわたって起きてしまいました。

武山　私は千葉県館山市と長野市に行きました。長野では台風19号が上陸した直後に、オペレーション・ブレッシング・ジャパン（OBJ　国際的な人道支援NGO日本支部）の災害支援の一員という位置づけで被災地入りしました。まだボランティアセンターも立ち上がっていない状況下、とりあえず、ある団地に入ってみたのですが、そこで一人の男性が、家の前に立ち尽くしている。「どうされたのですか？」と聞くと、鍵が開かなくて困っているとのこと。手の震えや声の調子から、なんらかの精神障害を患っておられると思いました。私が鍵をお借りして回してみたら、簡単に開いてしまいました。もう何時間もそうやって家の前で困っていたとのことでした。

坂岡　武山さんは、ソーシャルワーカーとして、京都で障害のある方の生活の相談支援をしていますが、その経験は役にたちましたか？

武山　一緒に入ったOBJ職員の方は、機材を駆使しながら、災害現場の壊れた家屋や家財、倒木などを処理していく専門家なのですが、そういう「ガンガン作業します」系の団体から見て、私の動きはとても新鮮に映ったようです。

坂岡　どんな動きをしたのですか？

武山　京都でやっているのと変わりのない動きです。なので逆に、驚かれたことが不思議なくらいでした。身についた習性というか、困っている人をかぎ分け（笑）、声をかける。話の内容、話し方、表情、目や体の動きなどを見ながら、困っておられることの正体が何なのかを確認しつつ返していく。それからその方が、困りごとも含めて、これからどうしたいのか希望をお聞きする。その場で解決できそうなことは、解決の方向性を示し、地域の機関につないでいく。

坂岡　なるほど。まさにソーシャルワーカーしてたんですね。（笑）

武山　先ほどの男性は、アルコール依存症であること、糖尿病を患っているのに、台風が来てからインスリン注射ができていないこと、生活保護で、今使えるお金が手元にないことなど、福祉や医療のニーズが見てとれました。

「ガンガン作業します」系と「ストーリー読み解きます」系のコラボ

坂岡　鍵が開かないことの立ち話から、そういうことをひきだした。そんな武山さんを見た「ガンガン作業します」系の方は？

武山　はい。「ガンガン作業します」系としては、今までなかった視点だったようです。屋根が壊れるとか水に浸かるということは、見た目にとてもわかりやすく、修理はできます。でも、そこで終わってしまう。本当はその先に、というか、その奥にというか、もっと日常的な困りごとや、その人なりの大切なストーリーがかくれています。その人が大切にしてきたもの、思い出、価値観、習慣、家族や友人、好きな食べ物、趣味…。災害にあってしまったからこそ、そこを軸にしてこれからの生活を考えていかないといけない。それがその人のストーリーです。

坂岡　台風で飛んだ屋根をなおすことは、もちろん差し迫って大切。でも、被災前に確かにあった生活と、屋根が飛んで困っている現在、そしてこれから築いていく未来の生活、この三つの時間をつなげてその人のストーリーを読み解く役割が必要、それがソーシャルワーク、ということでしょうか。

武山　はい。「ガンガン作業します」系としては、せっかく「ガンガン作業します」で入るなら、「ストーリー読み解きます」系も一緒について来いと。そうしたら、きっと被災された方の真の必要に届く、すごく良い動きができるのではないか？とおっしゃるわけです。

坂岡　なるほど。それは、逆に私達、福祉の側が見過ごしていたというか、気がつかなかったというか、気づかされたというか、「ガンガン作業します」系に教えていただいた視点ですね。

武山　そうなんです。私は、真備で、鼻の穴まで真っ黒にして作業しましたが、そのとき被災された方の心がとけた瞬間があったように思います。鼻の穴が真っ黒の私だからこそ、心を開いてくださった。休憩時間にその人のストーリーをいっぱい聞かせてくださいました。そして作業の後の祈りの輪に加わってくださいました。

市民レベルのソーシャルワーク

武山　とは言え、私はよそからきたソーシャルワーカーです。目の前にいる被災した人を、ずっと見ていくことができるわけではありません。でも、被災した人の現在を受け止め、必要を見極め、希望を聞き、その方にとって必要な現地のいろいろな人や機関、いわゆる「社会資源」がどこにあるのかを判断して、つなげていくことはできます。

坂岡　なるほど。もちろん、よそから来ているわけですから、わからないこともいっぱいありますよね。でも、とりあえず困っておられる状態を放置せずに、次につなげる役割はできますね。実際、被災地では、行政も福祉関係者も、みんな日常業務に加えて、自分の事務所の立て直しと、被災した人達からの新たな要請が仕事として増えるわけです。苛立った利用者から怒鳴られたりすることもあり、みなさん疲労困憊だと聞いています。

武山　アウトリーチ（積極的に出て行って、被災者の問題に働きかけること）まで、なかなか手が回らないというのが現実だと思います。だから、そのアウトリーチの部分を、外からきたソーシャルワーカーが、「ガンガン作業します」系と一緒に動きながら、担っていく。行政や福祉関係者にふらなくてもよい人の困りごとを選り分けて、法律家、地域のボランティア、様々な業者、近所の人や親族に、「この方の、この部分を助けてあげてください」と負担にならないよう気をつけながらお願いする。

坂岡　なんでもかんでも行政や福祉関係者に流れてしまう現状を食い止めて、他に振り分けていくのも、外からきたソーシャルワーカーの役割ということですね。

武山　はい。そして、それはなにも、社会福祉士や精神保健福祉士でなくても、ノウハウさえあれば、ある程度のところまでは、市民レベルでできるのではないかと思います。

坂岡　市民レベルで？

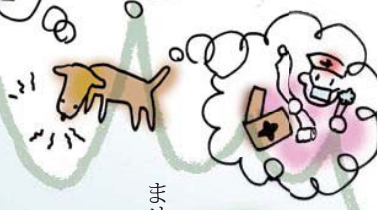
武山　実際の被災地では、たとえばわりあいお元気だった高齢者が、屋根から雨漏りのするカビのはえた家でふるえておられたということがありました。あきらかに以前よりも、健康が優れず、受け答えもうまくできなくなっている。そういう場合、どこに相談すればよいのか、けっこう誰も知らないんです。

坂岡　ええ？そうなんですか？答えは、地域包括支援センターでしょう？

武山　はい。でも、地域包括支援センターは介護保険のことだけやってるところだと思っている高齢者がたくさんおられたということで、被災後のある地域で「地域包括支援センターとは何をするところ？」というテーマの勉強会をすることになったそうです。

坂岡　たしかに、福祉のサービスって、自分と家族に必要が生じない限り、どんな仕組みになっているのか、みんな知らないかもしれません。

武山　だから、市民レベルで、いざという時のために、どんな社会資源があって、そこが何をしているところなのかを知っておくというだけでも、お隣さんを助け、行政や福祉関係者の負担を軽くして、専門職には専門職にしかできない必要な支援に集中してもらう、そんな手助けになると思います。



坂岡　地域の避難訓練や防災訓練と一緒に、そういう勉強会もあっていいかもしれませんね。

発災直後のソーシャルワーカー

坂岡　最後にお聞きしたいのですが、武山さんは、これからどのように被災地に関わっていきたいと思いますか？

武山　できれば、発災直後の被災地で働けたらいいなと思います。ソーシャルワーカーは、常日頃から、当事者のニーズを探り、見極め、支援を組み立てて、しかるべきところにつないでいく仕事をしています。日頃はそうして体を温めながら地域でお仕事をする。発災時には、被災地に飛んで行って、いろいろなことが十分に機能していないなかで、ニーズの高いところがどこか、優先順位を決めて道筋を作っていく、そんな発災直後のソーシャルワークができるワーカーになりたいなと思います。

坂岡　発災直後というと、まだまだ危険なことも多いと思います。体力や危険察知の能力、訓練も必要ですね。

武山　そういう方面では、「ガンガン作業します」系の方に、ガンガン指導していただきたいと思っています。（笑）

坂岡　なんだか不思議な気がするのですが、つまり、「行かなあかんような気がする」から、わけもわからず飛び出していった真備町での体験。そして、それがいつのまにか「発災直後のソーシャルワーカー」につながっている。武山さんにも、すごいストーリーができつつありますね。とても楽しみです。

2019年12月1日(談)

からしだねワークスの今日この頃（就労継続支援A型・B型）

支援に関わる人達の行動規範として基本的なものに、「バイステックの７原則」があります。

今回は、第１の原則「個別化の原則（人は皆、違う。支援も一人ひとり違う）」についてからしだねワークスでは、どのように取り組んでいるかをお知らせしたいと思います。

からしだねワークスでは、「仕事に取り組むまじめな意識」を、統一して大切にしていただくように気をつけています。

そのうえで、一人ひとりへの声のかけ方も、励ますタイミングも、注意してほしいことの伝え方も、変わってきます。ワークスの利用者さんは、まさに「個別」。一人ひとりとても個性的です。ワークスに来て、就労支援を受けるようになるまでの経緯も、育った家庭環境も、病気や障がいの出方も、全く違います。作業の速度も、得意なこと苦手なことも違います。また、お一人お一人が抱えておられる個人的なしんどさを職員にだけ教えてくださることもあります。それは、プライバシーにかかわる個人情報として、漏えいしないように気をつけないといけません。

時々、利用者さんから「なんで、あの人には注意しないのに、私にだけ注意するんですか？」と聞かれることがあります。そのようなときは、一人ひとり違うこと、その違いを詳しく説明できないこともあること、そして「あなたの目標は何でしたか？あなたはあなただけの目標や希望に向かってがんばってください」とお伝えするようにしています。

京都市東部障害者地域生活支援センター からしだねセンターの今日この頃（指定特定・一般・児童相談支援）

からしだねセンターでは、病気や障がいによって、家事ができない、病院や役所に一人で行けない、経済的に困っている、仕事続かない、育児が十分にできない・・・といった相談に、医療や福祉の制度・サービスを調整し、その方の暮らしが前に進んでいくように支援しています。しかし最近「こんなことが大切な支援になるんだ」と思ったことがありますので、シェアしたいと思います。

Ａ子さんは、こころの病気と付き合いながら、就労継続支援Ｂ型事業所で仕事をしておられるまじめな女性です。心をこめて取り組んだお仕事でお客様が喜んでくださる、それが何よりのやりがいになっています。けれども最近は体調が悪く、仕事を休みがちになりました。「仕事を休むと、普段できていることもできなくなる…お医者さんにも相談しているのに全然よくならなくて…」とポロポロ涙を流して苦しみを訴えられました。二人でどうすればよいのか考え、こんな結論を出しました。

作業に休まず来ることができたら、事業所のＢ子さん（Ａ子さんが信頼している女性職員）と「今日も作業に来れた！」と喜びあってハグをする、ということです。

Ａ子さんはさっそく、次の作業からそれを実践しました。今までは「作業を休んでしまわないか」そればかりに気持ちがいってしまい、余計不安になっていたようです。それがハグを通して「行けることが嬉しい」に切り替えることができ、「行けないしんどさ」がましになったと話しておられました。

しっかり話をし、一緒にできることを考える、この「対話」が、何よりも大切な支援だと実感した出来事でした。

2018年度　決算報告

資金収支計算書

科目	決算(B)
就労支援事業収入	23,608,046
障害福祉サービス等事業収入	82,078,288
借入金利息補助金収入	262,480
経常経費寄附金収入	1,796,495
受取利息配当金収入	412
その他の収入	46,100
事業活動収入計(1)	107,791,821
人件費	65,614,927
事業費支出	3,452,537
事務費支出	13,968,094
就労支援事業支出	25,545,045
利用者負担軽減額	111,600
支払利息支出	286,780
事業活動支出計(2)	108,978,983
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	-1,187,162
施設整備等補助金収入	200,000
施設整備等収入計(4)	200,000
設備資金借入金元金償還支出	2,470,000
固定資産取得支出	560,520
施設整備等支出計(5)	3,030,520
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	-2,830,520
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	-4,017,682
前期末支払資金残高(12)	48,104,871
当期末支払資金残高(11)+(12)	44,087,189

事業活動計算書

科目	当年度決算
就労支援事業収益	23,608,046
障害福祉サービス等事業収益	82,078,288
経常経費寄附金収益	1,796,495
サービス活動収益計(1)	107,482,829
人件費	65,614,927
事業費	3,452,537
事務費	13,968,094
就労支援事業費用	25,908,787
利用者負担軽減額	111,600
減価償却費	4,435,777
国庫補助金等特別積立金取崩額	-2,034,932
サービス活動費用計(2)	111,456,790
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	-3,973,961
借入金利息補助金収益	262,480
受取利息配当金収益	412
その他のサービス活動外収益	46,100
サービス活動外収益計(4)	308,992
支払利息	286,780
サービス活動外費用計(5)	286,780
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	22,212
経常増減差額(7)=(3)+(6)	-3,951,749
施設整備等補助金収益	200,000
特別収益計(8)	200,000
固定資産売却損・処分損	1
国庫補助金等特別積立金積立額	200,000
特別費用計(9)	200,001
特別増減差額(10)=(8)-(9)	-1
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	-3,951,750
前期繰越活動増減差額(12)	45,680,162
当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	41,728,412
次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	41,728,412

貸借対照表

科目名	当年度末
流動資産	50,358,703
固定資産	108,958,407
基本財産	106,148,418
その他の固定資産	2,809,989
資産の部合計	159,317,110
流動負債	8,741,514
固定負債	12,120,000
負債の部合計	20,861,514
基本金	60,768,000
国庫補助金等特別積立金	35,959,184
その他の積立金	-
次期繰越活動増減差額	41,728,412
純資産の部合計	138,455,596
負債及び純資産の部合計	159,317,110

2019 December 51号 2019年12月25日発行 編集 / 社会福祉法人ミッションからしだね 〒607-8216 京都市山科区勧修寺東出町75 Tel.:075-574-2800 E-mail:info@karashidane.or.jp URL:http://www.karashidane.or.jp

（2019.5 ～ 2019.11）

ご寄附者様

坂本正路　様
久道敬子　様
出村紫野舞　様
山下茂雄　様
同志社チャリティコンサート
　実行委員会　様
インマヌエル京都伏見教会様
京都復興教会　様
坂岡恵様
河原良治様
楽々堂様
インマヌエル久留米キリスト教会様

ご寄贈者様

竹村冨士雄様
榎本貴夫様
福本佐和子様
朱常分店様

後援会　ご支援ご協力者様

辻貴子　様
武山忠弘　様
木村きみえ　様
廣田正子　様
佐々木勝栄　様
細見忠雄　様
山根ひろみ　様
佐竹紀美子　様
大窪美祈　様
中澤博子　様
三浦良夫　様
森尚江　様
井上京子　様
中村市雄　様
青木理恵子　様
清水昇蔵　様
松田和代　様
砂川晋治　様

玉田貞子　様
広岡貞之　様
新山和子　様
山本千鶴　様
生川鉄兵　様
青田恵子　様
青田勝彦　様
和田義則　様
藤野美弥子　様
中野富美子　様
勝本博子　様
北村武司　様
大嶋沙綾子　様
矢嶋喜美子　様
江口真理　様
伊藤順子　様
柴田珠江　様
岸川萌木　様

宮﨑和子　様
林貞子　様
髙田須磨雄　様
内山映子　様
中村喜仁　様
Ｊフレンズ京都　様
宇治写真倶楽部　様
島田喜代子　様
戸塚英子　様
三好徳昌　様

万が一、ご一報くださいましたら
もれがございませんようよろしくお願いします。

いつもご協力いただき、ありがとうございます

社会福祉法人ミッションからしだね後援会は、「ミッションからしだね」を応援することにより、地域で暮らす障害者、とりわけ精神障害者の方々をサポートすることを目的とした団体です。
後援会の趣旨に賛同していただける方を募集しております。会員様には機関誌やカフェトライアングルの情報、様々な催しのお知らせなどをお届けします。

年会費
個人様　１口　3,600 円
団体様　１口　10,000 円

会費振込先
郵便振替
口座番号：００９７０-２-２２２３８０
加入者名：社会福祉法人ミッションからしだね後援会

通信をお手にとってくださり、ありがとうございます。
また、前号のお便りをくださった皆様、
ありがとうございます。
からしだね通信を今後もますます良いものにするため、
ご意見・ご要望・ご感想をぜひお聞かせください！
どうぞよろしくお願い致します。
送り先 ↓
〒607-8216
京都市山科区勧修寺東出町75
「からしだね通信作成係」行

メリークリスマス & ハッピーニューイヤー

2019年ありがとうございました。
2020年よろしくお願いいたします!!

次号は2020年6月発行です！